

青木彰記念講座

ジャーナリズムと メディアの現在

開設区分	自由特設
開設学期	春ABC、秋ABC
コーディネーター	亀谷 賢・塚本 幹夫 野上 元

◆ITF・筑波大学からジャーナリズムとメディアの現在と未来を考える

- 主にジャーナリズムやメディア業界で活躍中のOB / OGが講師陣として週替わりで登壇
- 多彩な業界・業務に就く講師から学ぶことにより、最新のジャーナリズム・メディア業界の動向やメディア・リテラシーを幅広く多面的に学ぶ
- 多くの講師陣は先輩でもあり、大学生活とキャリア形成を結びつけるための参考になる

◆青木彰記念講座の開設経緯

かつて筑波大学に「青木塾」という集いの場があった。1978年、産経新聞 取締役編集局長～タ刊フジ社長を歴任した青木彰氏が、筑波大学現代語・現代文化学系教授として着任。その前歴を知ったマスコミ志望の学生たちが、就職相談に押しかけたのが始まりで、青木氏は週に一度、彼らを自宅に招き、時事問題を論じたり、作文の講評をするなどして就職試験に備えると同時に、後半は「酒盛り」を通じ、記者時代のエピソードや自身が体験した戦後史のさまざまな事件の裏話などを語り、社会に巣立つ直前の学生たちに相互啓発の場を作っていた。いつからか学生たちは、その集いを「青木塾」と呼んだ。青木塾は1990年に青木氏が定年退官するまでの12年間続き、延べ200名を超える学生を輩出し、マスコミを中心に現在さまざまな分野で活躍している。

卒業生たちは、20年以上を経た現在も、自主的な自己研磨の場として、業種、業界を越えて交流を続けている。

◆開設目的・趣旨

「青木彰記念講座 ジャーナリズムとメディアの現在Ⅰ、Ⅱ」は、ジャーナリスト、広くメディアのご意見番、教育者であった青木氏の志を受け継ぎ、青木塾出身者を中心とした筑波大学OB/OG他、現役社会人が週替わりで登壇し、激しく移り変わる社会環境の中で、ジャーナリズムやメディアがおかれている現状について、それぞれの分野での最新のトピックを取り上げながら、理解を深めていく。同時に、近年急速に多様化し変貌するメディア環境の中さまざまな「情報」を的確に取捨選択し、判断し、活用していく能力、また自ら発信していく能力を高める。つまり「メディア・リテラシーを磨く」ことを主眼とする。

◆授業の概要

●春学期

Iでは、広く“メディア”と称される機能とツールに関して多面性を理解し、その上で、特に“ジャーナリズム”の役割に関して理解を深める。

また、多メディア化の中で変化を求められている現代の“マスメディア”の課題を検証していく。

●秋学期

IIでは、現代社会の中で必須の能力と言われる“メディアリテラシー”を磨くことに主眼を置き、“伝える能力”や“発信する能力”を高める。

また、従来のマスメディアとWEBメディアやSNSなどのメディアが相互にその利点を活用し、成果を上げている事例を考察し、次世代のメディアの在り方を展望する。

本学では、この科目のほかに、メディアやジャーナリズムに関する科目を次のように開設しています。ジャーナリズムに興味のある方は、是非、受講してみてください。

比較文化学類	ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ、情報文化概論Ⅰ・Ⅱ、メディア・コミュニケーション論、コミュニケーション論 マス・コミュニケーション論演習Ⅰ・Ⅱ
社会学類	ジャーナリズム特別演習、メディアと情報化の社会学
知識情報・図書館学類	メディア社会学

*授業概要等詳細は、開設授業科目一覧をご覧ください。

◆ 関連科目の紹介

ジャーナリズム／メディア業界で働くための技術や知識の習得

ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ(比較文化学類)
ジャーナリズム特別演習(社会学類) ———— より先に進みたい人は本講義の発展的科目

メディアやジャーナリズム、情報社会に関する知識の習得

メディア・コミュニケーション論、コミュニケーション論
マス・コミュニケーション論演習Ⅰ・Ⅱ(比較文化学類)
情報文化概論Ⅰ・Ⅱ(比較文化学類)
メディアと情報化の社会学(社会学類)
メディア社会学(知識情報・図書館学類) ———— 更に学術的に学びたい人は本講義に関連する科目

ジャーナリズム・メディアの基礎知識と最新動向を幅広く学ぶ

青木彰記念ジャーナリズムと
メディアの現在Ⅰ・Ⅱ

[基礎的中心科目] 2・3年次

さらに必要な知識や技術を学ぶ

ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ
マス・コミュニケーション論演習Ⅰ・Ⅱ
(比較文化学類)
ジャーナリズム特別演習
(社会学類)

[発展的科目] 2～4年次

メディアや情報社会について学ぶ

メディア・コミュニケーション論、
コミュニケーション論
(比較文化学類)
メディアと情報化の社会学
(社会学類)
メディア社会学
(知識情報・図書館学類)

[関連科目] 2～4年次

講義日時		講義タイトル	担当者	所属	出身学類/研究科
4/19	マスメディアの現在	① インTRODクシヨン～講義の紹介	亀谷 賢	magnet-inc 代表取締役	国際関係学類
4/26		② メディア＝ジャーナリズムの場として	原田 亮介	日本経済新聞社専務執行役員 論説委員長	比較文化学類
5/1		③ 出版という仕事——講談社の場合	鈴木 宣幸	講談社 編集総務局長	比較文化学類
5/10		④ 放送の仕事 番組制作と編成	大澤 徹也	関西テレビ 編成局長	体育専門学群
5/17		⑤ (メディアを支える)広告会社の基本機能	鶴留 伸二	電通メディアビジネス推進局 次長	体育専門学群
5/24	ジャーナリズム力	① 新聞の視点1(特派員という仕事)	石田 博士	朝日新聞社 国際報道部次長	社会学類
5/31		② 新聞の視点2(新聞記者の仕事とは)	小川記代子	産経新聞社 文化部長	人間学類
6/7		③ テレビニュースの特徴1(報道情報番組の視点)	松村 勝康	日本放送協会 報道局 チーフ・プロデューサー	国際関係学類
6/14		④ テレビニュースの特徴2(ニュース番組の視点)	谷川 秀夫	フジテレビジョン 報道局局 次長	比較文化学類
6/21		⑤ 雑誌ジャーナリズムの力	近藤 主税	新潮社	比較文化学類
6/28	メディア諸問題	① WEBと放送	鈴木 宏友	TBSテレビ情報システム局 システム企画部担当部長	社会学類
7/5		② メディアとジェンダー、ダイバーシティ	室田 康子	ジャーナリスト	経営・政策科学 研究科
7/12		③ 科学ジャーナリズムの視点	東嶋 和子	科学ジャーナリスト	比較文化学類
7/19		④ メディア報道を検証する	日下部 聡	毎日新聞社 社会部記者	国際関係学類
7/26		⑤ 気象を伝える	井田 寛子	気象キャスター	自然学類

筑波大学名誉教授 故 青木彰氏について



1926年東京生まれ。1949年東京大学文学部教育学科卒業後、産経新聞東京本社に入社。社会部を中心に活躍し、社会部長時代の1963年には〈小暴力追放キャンペーン〉で産経初の新聞協会賞を受賞する。以後、論説委員、編集局長、取締役、フジ新聞社代表取締役を歴任して、1978年退社。筑波大学現代語・現代文化学系教授となり、以後現場体験を踏まえた研究活動に入る。1990年筑波大学を定年退官後、朝日新聞紙面評議会委員、日本放送協会経営委員、東京情報大学経営情報学部長、司馬遼太郎記念財団常務理事、東京新聞客員などを務め、広く「マスコミ界の重鎮」として活躍する。2003年没。

作家 故 司馬遼太郎氏が、著書「街道をゆく・三浦半島記」の中で、青木氏の人的魅力について「お互いに若いころ、同じ新聞社にいた。この人が社会部デスクのころ、事件がおけると、事件そのものをこの人の大きな体と神経で浸しこむように覆い、音楽のようにさまざまな音色を出させるという、余人の真似がたい指揮をした。」と述べている。

秋学期 メディアリテラシーを磨く

講義日時		講義タイトル	担当者	所属	出身学類/研究科
10/4	伝える技術	① インTRODククション～講義の紹介	塚本 幹夫	ワイズ・メディア 代表取締役 メディアストラテジスト	社会学類
10/11		② 言葉で伝える	石部 典子	フリーアナウンサー	比較文化学類
10/18		③ 写真で伝える“今”	安田菜津紀	フォトジャーナリスト	上智大学 総合人間科学部
10/25		④ 企画で伝える	平山 康弘	博報堂 コピーライター/ ディレクター	比較文化学類
11/8		⑤ プレゼンで伝える	松田 真一	野村総合研究所 コンサルティング事業本部 上席コンサルタント	国際関係学類
11/15	発信力	① メディアをつくる	粟飯原理咲	アイランド株式会社 代表取締役	社会学類
11/22		② 提言をする	保屋野初子	ジャーナリスト 星槎大学共生科学部教授	比較文化学類
11/27		③ SNSを利用する	柿添 武文	フィンスイミング日本代表	体育専門学群
12/6		④ 逆視のメディア論 ～読者・視聴者と生活者～	石寺 修三	博報堂生活総合研究所 所長	人間学類
12/13		⑤ コンテンツに係る諸権利	加藤 浩輔	フジテレビジョン コンテンツ事業局統括担当局長	人間学類
12/20	メディアの進化	① 法制度からみたテレビ	山根 法久	フジテレビジョン 電波企画室長 兼 総合開発 局総合企画室長	比較文化学類
1/10		② クロスメディア・紙媒体とデジタルメディア	麓 幸子	日経BPヒット総合研究所長・ 執行役員	人文学類
1/24		③ クロスメディア・広告コミュニケーションの進化	三神 正樹	博報堂常務執行役員MD戦略 センター長補佐 兼博報堂DYメディアパートナーズ 常務執行役員デジタルメディア ビジネスユニット長	情報学類
1/31		④ クロスメディア・放送と通信の連携	二瓶 浩一	電通ラジオテレビ局専任局次長 次世代放送担当	人間学類
2/7		⑤ 司馬遼太郎が筑波大生に伝えたかったこと	高木 宏治	東京電力 北京事務所 代表	社会学類

●春学期

主に本学出身のジャーナリストおよびメディア関係者を講師として招き、毎回、異なった講師からの複眼的な視線によるオムニバス方式で、現在のメディアに関する理解を深める。Ⅰでは、広く“メディア”と称される機能とツールに関して多面性を理解し、その上で、特に“ジャーナリズム”の役割に関して理解を深める。また、多メディア化の中で変化を求められている現代の“マスメディア”の課題を検証していく。「青木彰記念・ジャーナリズムとメディアの現在Ⅱ」と、相互に関連した内容なので、できればそれらとあわせて受講することが望ましい。

●秋学期

主に本学出身のジャーナリストおよびメディア関係者を講師として招き、毎回、異なった講師からの複眼的な視線によるオムニバス方式で、現在のメディアに関する理解を深める。Ⅱでは、現代社会の中で必須の能力と言われる“メディアリテラシー”を磨くことに主眼を置き、“伝える能力”や“発信する能力”を高める。また、従来のマスメディアとWEBメディアやSNSなどのメディアが相互にその利点を活用し、成果を上げている事例を考察し、次世代のメディアの在り方を展望する。「青木彰記念・ジャーナリズムとメディアの現在Ⅰ」と、相互に関連した内容なので、できればそれらとあわせて受講することが望ましい。